OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Lucian's Description of Herodotus in the Herodotus
Author(s)	Katsumata, Yasuhiro
Citation	文芸学研究. 2012, 16, p. 1-15
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/51648
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ルーキアーノス『ヘーロドトスまたはアエティオーン』におけるヘーロドトス

勝又泰洋

本稿は、ローマ帝政期に弁論家として活躍したルーキアーノス（後 120 頃-180 頃）の『ヘーロドトスまたはアエティオーン』を扱う。本稿の目的は 2 つある。本作における、ヘーロドトスの描かれ方を提示することが 1 つ、そして、その描写の持つ、弁論の場における潜在的効果を明らかにすることがもう 1 つである。

『ヘーロドトスまたはアエティオーン』において、ルーキアーノスは、ヘーロドトスのある行動を紹介する。しかしここで紹介される話は、古典古代の他の著作ではどこにも言及されていないもので、おそらくはルーキアーノスの作り話である。そのためこの話には、作り手ルーキアーノスの何らかの意図が潜んでいることが想定できる。

ルーキアーノスによって語られるヘーロドトスの話を子細に分析してみると、ヘーロドトスは弁論家（ῥήτωρ）として描かれていることがわかる。彼は、ルーキアーノスの時代の弁論家と同じ特徴を数多く持っており、振舞い方は明らかに弁論家のそれである。このことは、ルーキアーノスの『弁論教師』やピロストラトス（後 170 頃-249 頃）の『ソフィストたちの生涯』における記述と比較することによって証明される。

ルーキアーノスがヘーロドトスのことを典型的な弁論家として提示することによって、弁論の場にはおそらく和やかな雰囲気が生じたことであろう。ルーキアーノスは、ヘーロドトスを描く際に弁論家の特徴を極端に誇張しており、ここにはおそらくルーキアーノスらしい諷刺の意味合いが認められる。しかしながら、そういう話をするルーキアーノス自身も弁論家であり、さらには、彼の目の前にいる聴衆の中にも弁論家が含まれていた。ヘーロドトスの話によって、ルーキアーノスが真剣に弁論家を攻撃しようとしたはずはない。彼は聴衆とともに自分たちの職業を軽い気持ちで笑い飛ばそうとしたのである。